

※担当教員とテーマは現在調整中。

科目名	私の研究テーマと研究方法	2 単位
担当教員	吉村 輝彦	
科目のねらい	<p>この科目は、全研究科が合同で開講する大学院共通科目である。大学院で研究を始めようとする院生に本学の教員が取り組んでいる研究テーマやそれに応じた研究方法を紹介する。</p> <p>また社会連携の視点から一般市民の皆さん、これから研究者をめざそうとする方々、実務関係者、そして学部学生にも広く公開している。各教員がリレー形式で、自分の研究テーマ、研究の背景、問題関心、研究方法、あるいは研究者としてのたどった道筋などを解説する。扱う領域は福祉、心理、開発、看護、スポーツなど多岐にわたる。研究テーマと研究方法の多様性と実際を理解し、自らの研究に向けて参考や示唆を得ることができることを学習目標とする。</p>	
開講形態	ハイブリッド形式	
授業の 進め方	<div>4 月 6 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      吉村 輝彦      オリエンテーション</div>	
	<div>4 月 13 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      原田 正樹      (仮) 地域共生社会の理念と施策ー地域福祉の視点からー</div> <div>7 限 20:05-21:35      野尻 紀恵      子どもの well-being を実現できる地域づくり</div>	
	<div>4 月 27 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      大谷 京子      反抑圧ソーシャルワーク</div> <div>7 限 20:05-21:35      木全 和巳      「パターナリズム」概念のソーシャルワークー実践理論研究の視点からの批判的検討</div>	
	<div>5 月 18 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      斉藤 雅茂      高齢者の社会的孤立の予防・軽減にむけた地域介入の実証・実装研究</div> <div>7 限 20:05-21:35      住田 健      スポーツ観戦を通じた地域活性化</div>	
	<div>6 月 1 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      児玉 善郎      しあわせな生活の基盤をなす居住福祉に関する研究</div> <div>7 限 20:05-21:35      末盛 慶      日本の社会構造と今後の方向性</div>	
	<div>6 月 15 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      綿 祐二      次世代型の施設運営・人材マネジメント</div> <div>7 限 20:05-21:35      砂原 美佳      (仮) スウェーデンによる国際協力と評価制度について</div>	
	<div>6 月 29 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      森 礼子      地域における結核療養者支援ー治療中断を防ぐためにー</div> <div>7 限 20:05-21:35      福元 理英      発達障害児の理解と小学校における学習支援</div>	
	<div>7 月 13 日 (月)</div> <div>6 限 18:25-19:55      藤森 克彦      これまでの主要な研究テーマの推移ー問題意識を中心に</div> <div>7 限 20:05-21:35      角崎 洋平      借金・貸付からみた貧困と福祉国家</div>	
事前学習の内容 学習上の注意	講義ごとにコメント用紙を提出すること。※nfujp 上に、講義日の翌日中に提出。	
テキスト	なし	
成績評価 方法と基準	<p>小レポート 50 点、最終課題レポート 50 点で 100 点満点。60 点以上を合格とします。</p> <p>小レポートは講義ごとに所定の様式で提出いただくものです。最終課題レポートは全 15 講義のうち、少なくとも 2 講義を選んで、それぞれについて(単なる感想でなく)「講義から学んだこと」を所定の用紙に 1 講あたり 1 枚に書いて、全 15 講義終了後に所定の方法で提出してください。</p>	

□医療・福祉専門科目

科目名	リハビリテーション特論Ⅰ	1 単位
担当者	浅井 友詞、岩田 全広、野間 知一 木村 圭佑（非常勤教員）、小久保 充（非常勤教員）	
開講形態	第1回～第5回：ハイブリッド形式 第6回、第7回：原則対面形式	
テーマ	リハビリ（予防期、急性期、回復期）、・フレイルを通して、患者・利用者の Well-being を支援する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; リハビリテーション、転倒予防、フレイル、マネジメント、ICF、Well-being</p> <p>&lt;内容の要約&gt; リハビリ・転倒予防・フレイル・マネジメントを通して、利用者の Well-being を支援する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>①リハビリ、転倒予防、フレイル中心にマネジメントの基礎的知識・考え方を理解する。</p> <p>②多職種連携の共通用語である ICF を理解し活用できる。</p> <p>③予防期・急性期・回復期・生活期のリハビリテーションマネジメントの実践と課題を理解する。</p> <p>④ケースディスカッションを通じて Well-being の実現を検討できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 リハビリテーションマネジメントの基本的な知識①（2時間）【浅井】</p> <p>第2回 予防期 地域で取り組むフレイル予防、転倒予防、誤嚥性肺炎予防における Well-being リハビリテーションの実践と評価（2時間）【浅井】</p> <p>第3回 急性期 早期リハビリテーションマネジメントの実践と評価（2時間）【岩田】</p> <p>第4回 回復期 入退院支援やリスクマネジメント①前半期（2時間）【野間】</p> <p>第5回 回復期 入退院支援やリスクマネジメント②後半期（2時間）【野間】</p> <p>第6回 回復期 ケース教材を用いたケースメソッド演習①（変則3時間）【木村】</p> <p>第7回 回復期 ケース教材を用いたケースメソッド演習②（変則3時間）【小久保】</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>（第1回～第5回） 各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。</p> <p>（第6回-第7回） 1週間前に使用するケース教材・課題シートを配布します。事前学習としてケース教材をよく読んで、課題シートの設問について自身の考えをまとめておくこと。</p>	
本科目の関連科目	リハビリテーション特論Ⅱ、先端老年社会科学講座（大学院共通科目）、ケースメソッド基礎	
テキスト	講義資料配布	
参考文献	特に指定しない。	
成績評価方法と基準	小レポート 30%、最終レポート 70%により評価し、総合評価 60%以上を合格とする。	

科目名	リハビリテーション特論Ⅱ	1 単位
担当者	山中 武彦 ・ 渡辺 崇史 ・ 川村 享平(非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	ICT や福祉機器の導入・活用による自立支援・業務改善で Well-being を目指す	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; ICT、福祉機器、自立支援、業務改善、Well-being、ICF、社会参加</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ICT や福祉機器（自助具含む）を導入する目的は、高齢者・障害者の自立支援を目指すとともに、医療・福祉現場の業務改善や働き方改革を目指します。特に介護人材が不足している高齢者・障害者施設や在宅では、介護ロボット、リフト、ICT などテクノロジーの活用推進による生産性向上が求められています。</p> <p>しかし、ICT や福祉機器導入に不安・抵抗感がある、導入したものの使いきれず、いつのまにか元の仕事の仕方に戻ってしまうなど、組織マネジメントに課題があることが指摘されています。背景には、ICT や福祉機器の導入が医療・福祉現場の価値を高める生産性向上、ケアの改善、利用者の自立支援に資するという全体像や、マネジメントプロセスを組織内で共有されていないことがあります。</p> <p>ICT や福祉機器導入のマネジメントプロセスは、①改善活動の準備、②課題の見える化、③実行計画の立案、④改善活動の実施、⑤改善活動の振り返り、⑥実行計画の練り直しのPDCA を組織全体で展開します。ただし、医療・福祉現場の業務改善の課題整理をしないで、導入することも散見されます。本講義では、これらを踏まえたうえで、ICT や福祉機器導入・実践・評価までの一体的なマネジメントプロセスを学びます。</p> <p>さらに、重度な障害者が ICT や福祉機器によって社会参加を成し遂げるという事例も多く報告されています。これは ICF の環境因子である ICT と福祉機器が、生活機能である「活動」と「参加」との相互作用を発揮することで、Well-being が実現されています。</p> <p>また、本講義はケースディスカッション（ケースメソッド）や実践事例の検討を多めに配置しています。参加者同士の相互作用を醸成することで、分析力・問題解決力・連携力を向上させ、Well-being の実現を追求します。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①ICT・福祉機器導入・活用による自立支援や業務改善の現状と課題が説明できる ②ICT・福祉機器導入・活用によるマネジメントプロセスを説明できる ③ICT・福祉機器によって生活機能が向上し、Well-being の実現を検討できる ④ICT・福祉機器導入・活用の実践例から、組織マネジメントの現状と課題を整理できる</p>	
授業の進め方	第01回 福祉機器導入・活用が求められる背景（山中） 第02回 福祉機器のマネジメントプロセスの実際（山中） 第03回 福祉機器と社会参加の実現①（渡辺） 第04回 福祉機器と社会参加の実現②（渡辺） 第05回 福祉機器導入・活用の事例①（山中） 第06回 福祉機器導入・活用の事例①（山中） 第07回 福祉機器導入・活用の事例②（川村） 第08回 福祉機器導入・活用の事例②（川村）	
事前学習の内容・学習上の注意	必要に応じ、授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。	
本科目の関連科目	効果的な学習のため、「リハビリテーション特論Ⅰ」の履修を推奨します。	
テキスト	なし	
参考文献	適宜授業内で紹介します	
成績評価方法と基準	1 回ごとのコメントカードの提示（40%）、提出レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で 60%以上を合格とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	スーパービジョン論	2 単位
担当者	大谷京子・ 山口みほ	
開講形態	ハイブリッド形式（第8回・第9回は対面開講）	
テーマ	ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解と実践への応用	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;            ソーシャルワーク・スーパービジョン、個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係性、スーパービジョンの倫理</p> <p>&lt;内容の要約&gt;            ①ソーシャルワーク・スーパービジョンについての基礎的理解を図る。スーパービジョンの教育的機能・支持的機能・管理的機能の具体的な展開について、実践的に学ぶ。            ②所属組織におけるソーシャルワーク専門職としての在り方を考える。            ③後進養成教育の過程におけるスーパービジョンの援助関係の特質や具体的な援助技術について明確化を図る。</p> <p>&lt;学習目標&gt;            ・ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解を図り、自らの教育体験や現場体験を内省的に考察し、言語化することができる。            ・専門職としての後進育成に関する、新人研修・実習教育プログラム等の具体的な計画やマネジメントを遂行できる。</p>	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション（担当：大谷） 第2回 スーパービジョンに関する理論①（山口） 第3回 スーパービジョンに関する理論②（山口） 第4回 スーパービジョンのセッション事例（大谷） 第5回 スーパービジョンで活用されるスキル（大谷） 第6回 新米スーパーバイザーが直面する困難とその対処（大谷） 第7回 スーパーバイザーとしてセッションを開始し、続けるための工夫（大谷） 第8回 個別スーパービジョンの実践的理解（ローププレイと振り返り）（大谷） 第9回 個別スーパービジョンの実践的理解（ローププレイと振り返り）（大谷） 第10回 グループスーパービジョンの実践的理解（ローププレイと振り返り）（山口） 第11回 グループスーパービジョンの実践的理解（ローププレイと振り返り）（山口） 第12回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会（山口） 第13回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会（山口） 第14回 個別スーパービジョンの演習（山口） 第15回 全体の総括・まとめ	
事前学習の内容・学習上の注意	テキストにはあらかじめ目を通して、ソーシャルワークスーパービジョンについての基礎的理解をおさえておくこと。 積極的な自己学習と講義時の討議への積極的な参加を期待する。 実践レポートについて：本科目で実施した講義と演習を基に、受講者それぞれの現場でスーパービジョンを試行していただき、その内容について報告してください。（40文字×40行で1600字以内）	
本科目の関連科目	ソーシャルワーク論	
テキスト	大谷京子・山口みほ編著（2019）『スーパービジョンのはじめかた：これからバイザーになる人に必要なスキル』ミネルヴァ書房	
参考文献	アルフレッド・カデュエシン（2016）『スーパービジョン イン ソーシャルワーク 第5版』中央法規出版。 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2023）『実践ソーシャルワーク・スーパービジョン』中央法規出版。	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの参加度（40%）、実践報告レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	家族と 社会保障（隔年開講、2026 年度開講）	2 単位
担当者	藤森 克彦	
開講形態	ハイブリッド 形式	
テーマ	①なぜ日本の貧困率が高いのか ②なぜ単身世帯は増加するのか。求められる社会（福祉）政策は何か。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. 単身世帯、2. 所得再分配、3. 貧困、4. 社会的孤立、5. 福祉国家レジーム</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本科目では、前半で、日本の社会保障制度について、国際比較を交えながら、その特徴と限界を考える。 後半では、単身世帯を切り口に、日本の社会（福祉）政策を考察していく。日本では、生活上の様々なリスクに家族が大きな役割を果たしてきた。しかし、世帯規模が縮小し、家族の支え合い機能が、従来よりも弱くなっている。単身世帯の増加は、その象徴といえる。そこで、単身世帯の増加の実態と生活上のリスクを考察しながら、今後、求められる政策等を総合的に考察していく。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・ 社会（福祉）政策の役割を説明できる。 ・ 日本の貧困の実態と要因を把握し、必要な社会（福祉）政策を説明できる。 ・ 単身世帯の増加実態とその要因を把握し、必要な社会（福祉）政策を説明できる。</p>	
授業の進め方	第1講 インTRODクシヨソ社会保障制度とは何か 第2講 日本の社会保障制度の枠組み 第3講 国際比較を通して、日本の貧困を考える① 第4講 国際比較を通して、日本の貧困を考える② 第5講 所得再分配の効果をめぐる議論と実態① 第6講 所得再分配の効果をめぐる議論と実態② 第7講 福祉国家の3類型① 第8講 福祉国家の3類型② 第9講 単身世帯の増加とその要因 第10講 単身世帯の生活上のリスクー社会的孤立、貧困、介護① 第11講 単身世帯の生活上のリスクー社会的孤立、貧困、介護② 第12講 単身世帯と「身寄り問題」① 第13講 単身世帯と「身寄り問題」② 第14講 単身世帯の増加に対する対策 第15講 まとめ講義	
事前学習の内容・学習上の注意	・ 講義の中では「考えること」を重視するため、教員から学生に問いを投げかけ、学生に発言を求める対話型の講義を行っていく。 ・ 第1講から第8講までは、日本の社会保障制度について講義を行う。第9講以降は、単身世帯を切り口に、生活保障を考える。 ・ 講義終了後、学んだ内容を指定テキストや参考文献によって確認しておくこと。	
本科目の関連科目	特になし	
テキスト	藤森克彦『単身急増社会の希望』日本経済新聞出版社、2017 年（講義内で配布予定）	
参考文献	権丈善一・権丈英子『もっと気になる社会保障』勁草書房 2022 年 権丈善一『ちょっと気になる社会保障Ⅴ4』勁草書房 2025 年 権丈英子『ちょっと気になる働き方の話（第2版）』勁草書房 2024 年 権丈善一『ちょっと気になる政策思想（第2版）』勁草書房 2021 年 権丈善一『ちょっと気になる医療と介護（第3版）』勁草書房 2023 年 厚生労働省『平成 24 年厚生労働白書』（「第1部 社会保障を考える」を活用）以下のHPより、ダウンロード可。 <a href="http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/">http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/</a>	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの参加度（30％）、最終講義後に提出を求める課題レポート（70％）を合わせて、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	暮らしと医療福祉制度	2 単位
担当者	李 忻	
開講形態	対面形式	
テーマ	生活・暮らしの視点から医療福祉制度を学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 制度・政策の定義、医療保険制度、高齢者に関わる医療・福祉制度、介護保険制度</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 21 世紀初頭に日本は世界一の超高齢社会となった。それに伴い、国民医療費を筆頭に、医療・福祉分野での費用支出が増え続けてきた。国民皆保険の医療制度を維持しつつ、医療福祉システムの効率化がより一層求められている。</p> <p>本講義ではまずは、基礎知識として医療・福祉に関わる諸制度・政策に関する専門用語の定義を学び、今日の日本の医療・福祉制度の基本的な枠組みや財政状況を理解する。その上で、数多くの医療福祉制度・政策において、生活や暮らしの視点から、それぞれの制度の対象者や、被保険者、保険料、保険給付などを学ぶ。さらに、それぞれの制度・政策の構造的な課題について自ら分析・整理し、これらの制度・政策の課題を解決するための改革案を提案できる知識を習得する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 社会保障制度の中での医療福祉制度について理解できる。 現役世代の医療保険制度が理解できる。 高齢世代に関わる医療保障制度が理解できる。 今日の医療福祉制度・政策の課題が理解できる。 医療福祉制度・政策の課題を解決するための改革案が提案できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 制度・政策に関わる基礎知識の学習 第 2 回 日本の国民皆保険の歴史 第 3 回 日本の医療保険制度の枠組み 第 4 回 国民健康保険制度 第 5 回 被用者医療保険制度 第 6 回 近年の医療保険制度改革 第 7 回 後期高齢者医療制度 第 8 回 前期高齢者医療財政調整制度 第 9 回 高齢者医療制度を支える財政の仕組み 第 10 回 今日の医療保険制度の課題 第 11 回 介護保険制度の仕組み（1） 第 12 回 介護保険制度の仕組み（2） 第 13 回 介護保険制度の近年の制度改正 第 14 回 介護保険制度の財政構造と課題 第 15 回 医療福祉の連携と地域包括ケアシステム	
事前学習の内容・学習上の注意	○授業の討論に積極的に参加し、自らが意見を述べる際に根拠を示すこと。 ○授業の後、復習すること。	
本科目の関連科目	ケアマネジメント論、人材マネジメント論、家族と社会保障（社会福祉政策論）、医療・福祉マネジメント（保健・医療・福祉サービス論）	
テキスト	テキストを使用せず、講義資料を配布する。	
参考文献	・『よくわかる社会保障論』、増田雅暢・小島克久・李忻、法律文化社、2021 ・『医療の経済学』、河口洋行、第 4 版、日本評論社 ・『日本の医療 制度と政策』、島崎謙治、東京大学出版会 ・『医療政策論』（通信教育部指定教科書、日本福祉大学）	
成績評価方法と基準	・講義でのディスカッションへの参加（40%）、期末レポート（60%）で成績判定を行う。 ・総合評価 60 点以上を合格とする。	

□医療・福祉実践科目

科目名	多職種連携概論	2 単位
担当者	篠田 道子( 非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド 形式	
テーマ	多職種連携の視点から医療・福祉サービスのマネジメントを考える	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 多職種連携、マネジメント、組織変革、リスクマネジメント、意思決定支援</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 少子高齢化や情報化の進行とともに、医療・福祉サービス、組織やチーム、リーダーシップのあり方が変化している。本講では多職種連携の視点から医療・福祉サービスのマネジメント（管理・運営・経営）を考える。ケースメソッド、事例検討など複数の方法を組み合わせながら多面的に検討する。授業では様々な多職種連携の場面にスポットを当て、自分がその場面の当事者であればどのように状況を理解し、そしてどのように意思決定し、組織やサービスを動かしていくのかを考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携の必要性とその実際を理解できる</li> <li>・医療・福祉サービスのマネジメントを理解できる</li> <li>・多職種連携の課題をミクロ・メゾ・マクロの視点から説明できる</li> </ul>	
授業の進め方	<p>第1・2回 オリエンテーション、自己紹介、多職種連携を高めるカンファレンス（ブレインストーミング、ケース教材によるディスカッション）</p> <p>第3・4回 医療・福祉施設におけるリスクマネジメント</p> <p>第5・6回 医療・福祉施設における組織変革</p> <p>第7・8回 業務改善と働き方改革（院生による事例提供と討論）</p> <p>第9・10回 小規模事業所の事業承継</p> <p>第11・12回 多職種で支える意思決定支援 終末期ケアに焦点を当てて -</p> <p>第13・14回 静かなリーダーシップ（グループワーク＋発表）</p> <p>第15回 全体のまとめ・リフレクション</p> <p>本講義は、隔週2コマ連続とする。都合により内容と順番を一部変更する場合がある。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>・事前に配布したケース教材を読み、課題シートに自分の考えをまとめ、グループワークで発言できるように準備しておくこと。</p> <p>・授業では双方向性を大切にしているので、院生の積極的な問題提起を歓迎したい。</p>	
本科目の関連科目	ケースメソッド基礎、ケースメソッド演習	
テキスト	テキストは使用しない。レジュメ、ケース教材、実践報告、雑誌論文、新聞記事など多様な教材を使用する。	
参考文献	<p>・篠田道子（2011）『多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル』医学書院</p> <p>・篠田道子（2023）『チームを成長させる会議・カンファレンス 35 スキル』日本看護協会出版会</p> <p>・J.バダラッコ、高木晴夫監修（2010）『静かなリーダーシップ』翔泳社</p>	
成績評価方法と基準	<p>・最終レポート（50 点）、②平常点（50 点）：コメントカード、事前課題、グループワークへの参加状況等で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。</p> <p>・最終レポート：テーマは授業で扱う内容に関連するものを各自テーマ設定する。A4 版で 2000 字程度にまとめる。締め切りは 2026 年 7 月 31 日（金）。nfujp に提出する（授業初日に説明する）。</p>	

□講義科目（専門科目）

科目名	プログラム評価論	2 単位
担当者	横山 由香里	
テーマ	実践や介入プログラムの課題や効果等を科学的に評価する方法を学ぶ	
開講形態	ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. エビデンス 2. プロセス評価 3. アウトカム評価 4. ロジックモデル</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 近年、社会福祉や保健医療の実践が効果的に行われているかを検証することが求められています。本講義では、実践の経過や実践後の成果・課題等の評価方法を学び、研究のリテラシーを高めます。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 社会福祉や保健医療の領域で行われている取り組み（介入や実践）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や効果などを評価した文献を読むことができる</li> <li>・情報収集や分析時の注意点、個人情報の保護等を意識しながら研究計画を立案できる</li> <li>・多角的に評価することの重要性を理解できる</li> </ul>	
授業の進め方	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 エビデンスとは</p> <p>第3回 代表的な社会福祉調査法</p> <p>第4回 介入や実践の「効果」とは</p> <p>第5回 プログラムを開始する前のアセスメント・ロジックモデル</p> <p>第6回 「効果」を評価する方法①</p> <p>第7回 実際の文献に学ぶ</p> <p>第8回 バイアスとは</p> <p>第9回 「効果」を評価する方法②</p> <p>第10回 プロセス評価とは</p> <p>第11回 アウトカム評価とは①</p> <p>第12回 アウトカム評価とは②</p> <p>第13回 実際の文献に学ぶ</p> <p>第14回 様々なプログラム評価</p> <p>第15回 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げる文献は受講者の専門分野に合わせて決めます。</li> <li>・進度の都合で授業の順番を変更する可能性があります。</li> <li>・オンライン参加者の人数次第で、グループワークがしづらい場面が少しあるかもしれません。ご了承ください。</li> </ul>
事前学習の内容、学習上の注意	論文を事前配布した場合には、各自で目を通しておくことを推奨します。	
本科目の関連科目	研究方法概論	
テキスト	特になし	
参考文献	<p>「プログラム評価 対人・コミュニティ援助の質を高めるために」安田節之著. 新曜社 (2011) / 「プログラム評価の理論と方法 -システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド」P. H. ロッシ・M. W. リプセイ・H. E. フリーマン 著, 大島巖・平岡公一・森俊夫・元永拓郎 監訳. 日本評論社(2005)</p>	
成績評価方法と基準	レポートの提出（50%）、ディスカッションへの参加（50%）により、総合的に評価する。全体で 60%以上を合格とする。	



□講義科目( 大学院共通科目) ※ゲスト 講師及び講義テーマ調整中。確定次第差し替えます。

科目名	多職種連携実践 I	2 単位
担当者	水谷なおみ、認定社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士	
テーマ	福祉の実践事例から 多職種連携・ 地域連携について学ぶ	
開講形態	ハイブリッド 形式	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 多職種連携 多業種連携 地域連携 重層的支援 地域包括ケア 多職種連携教育</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 地域における各種事例の問題解決や福祉資源・地域づくりの多職種連携・地域連携の実践報告から「専門家の協働」「地域の連携」「有限な資源で最大限の成果を生み出す『やりくり』」について考え、多職種連携の課題と方法を学びます。 各領域の実践家による実践報告、学生との討議などから総合的に学ぶ教育方法をとります。 土曜日午後に開講し、平日多忙な人や遠隔地の人も参加しやすい配慮をします。 また、広く市民も受講できるよう一般公開します。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・多様なニーズへの対応、専門性の向上、地域づくりに必要な「多職種連携」について学び、実践力を高めることができる。 ・自分自身の問題意識、関心にひきつけ、他の実践事例から有効な実践・思考フレームを構築して応用できる。</p>	
<b>授業の 進め方</b>  1 限 13:25-14:55 2 限 15:05-16:35 3 限 16:45-18:15	<b>5月16日( 土 )</b>	
	1 限	
	2 限	
	3 限	
	<b>6月27日( 土 )</b>	
	1 限	
	2 限	
	3 限	
	<b>9月12日( 土 )</b>	
	1 限	
	2 限	
	3 限	
	<b>10月31日( 土 )</b>	
	1 限	
	2 限	
	3 限	
	<b>12月12日( 土 )</b>	
	1 限	
	2 限	
	3 限	
事前学習の内容学習上の注意	指定した参考文献は事前に読んでおくといいです。	
本科目の 関連科目	多職種連携概論	
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	
参考文献		
成績評価方法 と基準	毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点で 100 点満点。総合評価により 60 点以上を合格とします。	

□医療・福祉専門科目

科目名	ソーシャルワーク論 ※本科目は認定社会福祉士認定制度の認証科目（共通専門／ソーシャルワーク理論系科目群Ⅰ）です。	2 単位
担当者	田中 千枝子（非常勤教員）	
開講形態	対面形式	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として学び、事例研究やロールプレイやカンファレンス体験などを通じて理解する	
科目のねらい	<p>＜キーワード＞①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④ミクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤専門性</p> <p>＜内容の要約＞ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチに関する基本的知識や支援観や視点を得ることによって、特にミクロからメゾレベルのソーシャルワークの専門性の確認をする。また実践事例を分析し、グループ作業によりコミュニケーションをはかる体験をすることで、価値に基づく知識・技術を検証し、さらにそれを専門職のコンピテンスとして身に着けるために集団学習およびレポート作成によるセルフワークによる学習を行う。</p> <p>方法としては、実際の事例に対して様々な教育的手法により実践理論・モデル・アプローチを適用し、参加型授業によって個人・集団・地域等一定の視点からの事例の展開を観察し理解し分析し、解釈および評価するプロセスを追い、事例検討の流れを体験する。</p> <p>＜学習目標＞人の生活/人生に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して、働きかけることができる。ソーシャルワークの理論や展開過程を問題解決に応用する能力として身に着け、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントスキルの研鑽に役立てることを目的とする。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 オリエンテーション 授業契約</p> <p>第 2 回 SWの実践理論概論講義</p> <p>第 3 回 援助観・価値観の理論的変遷 事例による検討</p> <p>第 4 回 統合理論の概観 事例による検討</p> <p>第 5 回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ロールプレイ</p> <p>第 6 回 エコシステム論と時間：空間的把握 エコマップ・タイムライン作成 G作業</p> <p>第 7 回 ピンカス・ミナハンの4つのシステム理論、地域における多職種他機関連携を意識したエコマップ・タイムライン作成 G作業</p> <p>第 8 回 GWに関する基礎理論概観 チームアプローチ協働の型 ロールプレイ</p> <p>第 9 回 グループ力動論、司会の技術、事例検討、ロールプレイ KJ法によるGW</p> <p>第10回 課題に対するプレゼンテーション技術 ディスカッションとリーダーシップ</p> <p>第11回 地域福祉の技術と評価 調査研究</p> <p>第12回 エンパワメント評価法 ワークショップのロールプレイ</p> <p>第13回 SWリサーチ 介入計画の作成</p> <p>第14回 ミクロ・メゾ・マクロに展開するSWとマネジメント レポート</p> <p>第15回 グループ発表、まとめ、レポート作成</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>○前もって社会福祉学の基礎的な理論や概念の知識（教科書程度）を確認しておくこと</p> <p>○ディスカッションやロールプレイなどG作業や演習形式を多用するので、積極的に参加すること</p> <p>○専修や専攻を超えて様々な立場の学生が集まるので、多くの仲間を作るようにすること</p> <p>○集中講義3日間 午前と午後計6回の授業内レポートを課し、理解の内容を確認する</p>	
本科目の関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組みや問題提起に寄与する。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格付与対象科目として認定されている。	
テキスト	木村容子・小原真知子編 「ソーシャルワーク論Ⅱー理論と方法ー」法律文化社 2023	
参考文献	渡部律子『福祉専門職のための統合的多面的アセスメント』ミネルヴァ 2020 ブトユリム・Z 『ソーシャルワークとは何か』川島書店 1986 その他資料配布	
成績評価方法と基準	<p>集中授業3日間で、午前・午後の2回×3＝6回 レポート提出 60%</p> <p>ディスカッションやロールプレイへの参加度 40%</p> <p>総合評価により60点以上を合格とする。</p>	

# □講義科目（大学院共通科目）

科目名	研究方法概論Ⅰ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfujp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	研究方法の基礎知識と量的方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 研究方法 量的方法 理論 仮説 社会調査 統計学、多変量解析</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本科目では各院生が研究を進めていく上で必要となる研究方法について学び、研究方法の基礎知識と量的方法について理解を深める。具体的には、社会科学のリサーチデザイン、仮説および質問紙の作成方法、調査の実施方法、データ入力の方法、記述統計、推測統計、多変量解析について説明する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>研究方法の基礎知識と量的方法の概要を理解できる。</p> <p>量的データの収集方法を理解できる。</p> <p>量的データの分析方法を理解できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 社会科学研究入門：存在論・認識論・リサーチデザイン</p> <p>第2回 量的研究の進め方：理論・仮説・分析モデル</p> <p>第3回 質問紙の作成とサンプリング：データ入力とその後の管理も含めて</p> <p>第4回 統計学の基礎Ⅰ－統計学の概要と記述統計</p> <p>第5回 統計学の基礎Ⅱ－推測統計を学ぶ</p> <p>第6回 多変量解析の基礎Ⅰ－グループ間の差の検定</p> <p>第7回 多変量解析の基礎Ⅱ－相関分析</p> <p>第8回 多変量解析の基礎Ⅲ－回帰分析</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p><u>本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</u></p> <p>以下にあげた参考文献のうち、野村康『社会科学の考え方』、高根正昭『創造の方法学』、轟亮・杉野勇・平沢和司『入門・社会調査法』などを読みながら、受講することをお勧めする。</p> <p>なお、社会調査についてわからない事柄があった場合は、一般社団法人社会調査協会『社会調査事典』を、統計学についてわからない事柄があった場合は、大澤光『わかる・使える統計学用語』、Sarah Boslaugh（黒川利明訳）『統計クイックリファレンス（第2版）』などを参照すると良い。</p>	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、統計解析講座（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	<p>【研究方法論の基礎】</p> <p>高根正昭，1979，『創造の方法学』講談社現代新書</p> <p>野村康，2017，『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会</p> <p>戸田山和久，2022，『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK ブックス</p> <p>【社会調査】</p> <p>轟亮・杉野勇・平沢和司，2021，『入門・社会調査法（第4版）』法律文化社</p> <p>一般社団法人社会調査協会，2014，『社会調査事典』丸善出版</p> <p>【統計学】</p> <p>向後千春・富永敦子，2007，『統計学がわかる』技術評論社</p> <p>大澤光，2016，『わかる・使える統計学用語』アーク出版</p> <p>Sarah Boslaugh（黒川利明訳），2015，『統計クイックリファレンス（第2版）』オーム社</p> <p>【多変量解析】</p> <p>栗原伸一・丸山敦史，2017，『統計学図鑑』オーム社</p> <p>米川和雄・山崎貞政，2010，『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル』北大路書房</p> <p>村瀬 洋一・高田 洋他，2007，『SPSS による多変量解析』オーム社</p> <p>浦上昌則・脇田貴文.2020.『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方（改訂版）』東京図書</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート（50点）、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出（50点）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

## □講義科目（大学院共通科目）

科目名	研究方法概論Ⅱ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfujp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 質的方法 研究課題、質的データの収集、質的データの分析、質的研究の評価</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本科目では各院生が研究を進めていく上で必要となる研究方法について学び、研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。具体的には、質的方法の概要、研究課題の設定、質的データの収集方法、質的データの分析法の概要を解説する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 研究方法の基礎知識と質的方法の概要を理解できる。 質的データの収集方法を理解できる、 質的データの分析方法を理解できる。</p>	
授業の進め方	第1回 社会科学の認識論と質的研究：存在論・認識論・リサーチデザイン 第2回 質的研究の進め方：研究課題を設定するまでのプロセス 第3回 質的調査法Ⅰー個別インタビューとグループインタビュー 第4回 質的調査法Ⅱー観察法とエスノグラフィー 第5回 質的調査法Ⅲー多様な質的データの収集法 第6回 質的データ分析法の基礎Ⅰーナラティブ型の分析 第7回 質的データ分析法の基礎Ⅱーコーディング型の分析 第8回 質的データ分析法の基礎Ⅲーディスコース型の分析	
事前学習の内容 学習上の注意	<p><b>本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</b></p> <p>以下の参考文献のうち、中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』、工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元『質的調査の方法』を読みながら受講することをお勧めする。Pranee Liamputtong『質的研究法:その理論と方法：健康・社会科学分野における展開と展望』も良書である。【質的方法の調査法および分析法】にあげられている本を読むと、個々の質的調査法や分析法に関する理解が深まる。</p>	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、統計解析講座（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	<p>【研究の基礎】 高根正昭，1979，『創造の方法学』講談社現代新書 野村康，2017，『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会 上野千鶴子，2018，『情報生産者になる』筑摩書房</p> <p>【質的方法の概要】 中島洋，2015，『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院 グレッグ美鈴・麻原きよみ他．2016．『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして』医歯薬出版 Pranee Liamputtong（木原雅子・木原正博訳），2022，『質的研究法:その理論と方法：健康・社会科学分野における展開と展望』メディカルサイエンスインターナショナル ブシュカラ・ブラサド（箕浦康子監訳），2018，『質的研究のための理論入門』ナカニシヤ出版 ハイディ・レヴィット（能智正博他訳），2023，『心理学における質的研究の論文作法』新曜社</p> <p>【質的方法の調査法および分析法】 スタイナー・クヴァール（能地正博・徳田治子訳），2016，『質的研究のための「インター・ビュー」』新曜社 ティム・ラプリー（大橋靖史訳），2018，『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析』新曜社 マイケル・アングロシーノ（柴山真琴訳），2016，『質的研究のためのエスノグラフィーと観察』新曜社 グラハム・R・ギブズ（砂上史子・一柳智紀・一柳梢訳），2017，『質的データの分析』新曜社 戈木クレイグヒル滋子.2021.『グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた研究ハンドブック』新曜社 木下 康仁．2020．『定本 M-GTA :実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート（50 点）、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出（50 点）により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	福祉と介護	1 単位
担当者	水谷 なおみ・北村 眞弓（非常勤教員）	
開講形態	対面形式	
テーマ	介護を取り巻く社会的動向の理解と医療の視点を活用したケア方法、サービスマネジメント、およびリスクマネジメントについて理解する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 介護人材の確保、医療と連携したケア方法、ハラスメント、虐待予防</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 2040 年を見据えると、医療・介護の複合的ニーズを抱える 85 歳以上が増大する。要介護者は基礎疾患を複数保有していることから、病状は変化しやすく、常に医療と介護の連携が求められる。その一方、介護現場における介護人材の確保は喫緊の課題である。また、介護事故や虐待、ハラスメントについても指摘されている。</p> <p>本講義では、医療と連携したケア方法とサービスマネジメント、およびリスクマネジメントを取り上げ、安全な介護サービスの提供、介護人材を確保するための方策について講義や事例演習から検討する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①介護人材を取り巻く社会的動向を分析し、介護人材を確保する方策を検討できる。 ②脳卒中、心疾患、がん、認知症、フレイル、神経難病のケア方法や多職種連携のマネジメントを理解する。 ③介護事故、ハラスメント、虐待の対策を検討し、安全な介護サービスの提供を検討できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 介護を取り巻く社会的動向(1) 介護人材の確保・介護 DX など 第 2 回 介護を取り巻く社会的動向(2) 地域包括ケアシステム 第 3 回 ケア方法とサービスマネジメント(1) 第 4 回 ケア方法とサービスマネジメント(2) 第 5 回 ケア方法とサービスマネジメント(3) 第 6 回 リスクマネジメント(1) 第 7 回 リスクマネジメント(2) 第 8 回 リスクマネジメント(3)	
事前学習の内容・学習上の注意	・効果的な学習のために「福祉と疾病」を履修することが望ましい。 ・ディスカッションには積極的に参加すること。	
本科目の関連科目	福祉と疾病	
テキスト	なし（毎回、担当者が作成した資料等をもとに、講義と演習を行います）	
参考文献	・中澤まゆみ『おひとりさまでも最後まで在宅：平穏に生きて死ぬための医療と在宅ケア 第 3 版』築地書店 2020 年	
成績評価方法と基準	レポート(60 点)、毎回のコメントカード提出(20 点)、ディスカッションへの参加度(20%)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	福祉と 疾病	1 単位
担当者	洪 英在	
開講形態	対面形式	
テーマ	生活に配慮した医療の視点を学び、医療職と福祉職の連携の在り方に関する知見を深めることを目指す	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; がん、脳卒中、心疾患、認知症、フレイル、神経難病、在宅医療、意思決定支援、人生会議（ACP）、総合機能評価、多職種連携</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義では、医療・介護・福祉の連携について深めることを目指しているが、まずは、医療職の疾患のとらえ方、生活を支える医療とはどういうものか、という医療職の考え方を言語化する作業から開始し、共有することから始める。ガイドラインを踏まえた意思決定支援について、終末期医療における食に関する事項、終末期における諸問題について取り扱います。これらは、いずれも多職種が質の高い連携、協働の上で支えることが求められています。</p> <p>在宅医療での医療と福祉の連携、という観点で議論を進めるが、上記でとりあげる様々な事項は、在宅医療の現場だけではなく、病院、施設などすべての分野で共通する問題でもある。そのような課題を整理し、「生活に配慮した医療」の視点を知り、福祉職との連携の在り方に関して議論を進めたい。</p> <p>今後、在宅医療の推進は急務です。在宅医療においては、病院での医療とは異なる、在宅医療ならではの特有の考え方があります。それを意識しながら、医療的な視野を持ちつつ、多職種で療養者を支える方法を考えてみましょう。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 意思決定支援（ACP、人生会議）、終末期における食、終末期における諸問題を理解することができる。 在宅医療体制と支援機能（訪問診療・訪問看護・訪問リハ・訪問薬剤管理指導、訪問栄養食事指導等）の連携を理解できる。 多職種連携の意義、その方法について説明することができる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1,2 回 オリエンテーション、医療職の疾患のとらえ方、生活を支える医療とは？医療職の考え方</p> <p>第 3,4 回 意思決定支援、ACP、人生会議</p> <p>第 5,6 回 認知症と食に関する諸問題</p> <p>第 7,8 回 様々な終末期に関する諸問題</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>医療、福祉の現場経験のある方は、今までの経験の中で、印象に残っていることや問題に感じていることを思い出しながら臨んでください。</p> <p>上記のスケジュールは、参加者との議論の中で変わり得るものです。議論が深まったテーマは次回以降の授業で扱う場合もありますので、積極的な参加を求めます。</p>	
本科目の関連科目	効果的な学習のため、「福祉と介護」の履修を推奨します。	
テキスト	講義中に資料を提供いたします。	
参考文献	<p>&lt;著者&gt; 川越正平（著、編） &lt;書籍名&gt;在宅医療バイブル 家庭医療、老年医学、緩和医療学の3領域からアプローチする 第2版 &lt;出版社&gt;日本医事新報社</p>	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの参加度（40%）、提出レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	多文化共生とディスアビリティ	2 単位
担当者	大谷京子	
開講形態	ハイブリッド 形式	
テーマ	ディスアビリティの視点から多文化共生を志向する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 障害学、交差性、反抑圧ソーシャルワーク</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 多文化共生をめぐる理論的・実践的課題を、ディスアビリティの視点から批判的に検討する。とくに障害学（Disability Studies）および障害文化（Disability Culture）の知見を基盤に、障害が文化・社会・権力関係の中でどのように構築されてきたのかを理解する。あわせて、交差性（intersectionality）に着目し、反抑圧ソーシャルワークの適用について検討したい。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①障害学・障害文化の視点から、障害の社会的・文化的構築を批判的に分析できる。 ②障害と民族、国籍、ジェンダー、階級などとの交差性について理解する。 ③反抑圧ソーシャルワークについて説明できる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 オリエンテーション /第 2 回 多文化共生概念の系譜と社会福祉学的課題 第 3 回 障害概念の変遷 /第 4 回 ディスアビリティのモデル 第 5 回 障害学（Disability Studies）、マッドスタディーズの概要 第 6 回 障害文化という考え方 第 7-8 回 ディベート 第 9 回 交差性概念 /第 10 回 ジェンダー・セクシュアリティとディスアビリティ 第 11 回 反抑圧ソーシャルワークの概要 第 12 回 反抑圧ソーシャルワークのための再帰性（reflexivity） 第 13-14 回 受講者による研究発表 第 15 回 総括討論</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>■研究発表について 多文化共生の現状と課題について、13.14講で研究発表をしていただきます。たとえば「反抑圧ソーシャルワークを自組織に導入するには」、「障害文化という視点を」など、テーマは自由です。2時間ほど、グループでの検討時間を授業時間内に提供しますが、それだけでは足りませんので、授業時間外での準備が必要になります。</p> <p>■初回授業の時に、あらかじめ参考文献の中から1冊を読んでレポートを提出してください。テーマは自由です。A4用紙に40文字×40行で1600文字以内です。</p>	
関連科目	人権とダイバーシティ	
テキスト	テキストは利用せず、プリントなど資料を用意する。	
参考文献	<p>石川准・長瀬修 編（1999）『障害学への招待』明石書店。 星加良司（2007）『障害とは何か：ディスアビリティの社会理論に向けて』生活書院。 コリンズ・P.ヒル（2024）『インターセクショナルリティの批判的社会理論』勁草書房。 坂本いづみ・茨木尚子・竹端寛・二木泉・市川ヴィヴェカ(2021)『脱「いい子」のソーシャルワーク - 反抑圧的な実践と理論』現代書館。 加賀美常美代（2025）『多文化共生論：多様性理解のためのヒントとレッスン』明石書店。</p>	
成績評価方法と基準	レポート(40%)、ディスカッションへの貢献（30%）、研究発表（30%）によって評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	人権とダイバーシティ	1 単位
担当者	木全 和巳	
開講形態	対面形式	
テーマ	「多様性との対話」-「人間の権理(ヒューマンライツ)」概念を手掛かりとしてソーシャルワーク実践に引き寄せつつ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; ダイバーシティ（多様性）、ヒューマンライツ（人間の権理）、SDGs、ジェンダー、セクシュアリティ、ディスアビリティ、レイシズム、差別、インターセクショナルリティ ポリティカル・コレクトネス ソーシャルワーク実践</p> <p>&lt;内容の要約&gt; キーワードにあるようにダイバーシティ（多様性）については、多彩な対象や切り口や論点が多々ある。具体的な「なまみ」の名前がある人たちに起こる事象とこうした理念や概念を重ね合わせつつソーシャルワーク実践の視点から、個別のテーマを提示しつつ、対話を大切にしながら学び合う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・朝井リュウは『生欲』新潮社（2021）の中で「多様性とは、都合よく使える美しい言葉ではない。自分の想像力の限界を突き付けられる言葉のはずだ。時に吐き気を催し、時に目を瞑りたくなるほど、自分にとって都合の悪いものがすぐ傍で呼吸していることを思い知らせる言葉のはずだ」と書いていた。ダイバーシティ（多様性）を尊重するとはどのようなことなのか？ 現実の事象の把握の仕方を含め、学び合い方、考え合い方も含め、共に学び合い、考え合いたい、自分に納得でき、他者にも伝わる言葉を紡ぎたい。 ・基本的人権や人々のダイバーシティについて理解し実践できる。</p>	
授業の進め方	<p>I.（第1回-第2回）9月30日（水）6時限～7時限 ダイバーシティ（多様性）とヒューマンライツ（人間の権理）と差別 SDGsの内容と関係だけの推進企業や教育の問題点</p> <p>II.（第3回-第4回）10月14日（水）6時限～7時限 しょうがい（ディスアビリティ）の理解を中心に</p> <p>III.（第5回-第6回）10月28日（水）6時限～7時限 ジェンダーの理解を中心に フェミニズムと多様な「家族」も 多様な性と生（セクシュアリティ）を中心に LGBTQ+など</p> <p>IV.（第7回-第8回）11月11日（水）6時限～7時限 多文化共生とレイシズムを中心に ポリティカル・コレクトネスの理解も</p> <p>2限続きなので、話題提供、対話的討論 わかちあいという方法で行いたい。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>関連するテーマは幅広く、理論も切り口も多彩である。「インクルージョン（包摂）、ダイバーシティ（多様性）、平等はIOCのあらゆる活動の核心的な要素であり、差別禁止はオリンピック・ムーブメントの主要な柱」とIOCは語る。コロナ禍の東京五輪では『イマジン』を歌いながら「国別」のメダルを競う野蛮、「ほんとうのさいわい」をねがった宮沢賢治もあきれかえるオリンピック憲章で多様性と共生などを謳いつつ、女性差別、しょうがい蔑視、ナチス肯定など差別的な行為を行った人間が運営を仕切る茶番。実は、トランプ再選後、企業理念からDE&amp;I（ダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルーシブネス）を消したというできごと。「はて？」と批判的に学び合いたい。</p>	
本科目の関連科目	特になし	
テキスト	<p>岩渕功一『多様性どう向き合うか』岩波新書 2025 資料を用意する。</p>	
参考文献	<p>岩渕功一（著編集）『多様性との対話 ダイバーシティ推進が見えなくするもの』青弓社 2021 ダイアン・J・グッドマン（著）、出口真紀子（訳）『真のダイバーシティをめざして：特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』上智大学出版 2017</p>	
成績評価方法と基準	<p>毎回のコメントを含む講義への参加度（40%）、最終レポート（60%）により評価し、総合評価60%以上を合格とする。最終レポートのテーマは、各回から各自選ぶこと。3200字程度。論理性、説得力などで評価をする。</p>	



# □医療・福祉専門科目

科目名	医療・福祉マネジメント	2 単位
担当者	近藤 克則( 非常勤教員)・渡邊 良太( 非常勤教員)	
テーマ	医療・福祉のマネジメント 課題の全体像を学び、実践と 研究に活かす	
開講形態	ハイブリッド 形式	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;  医療・福祉  マネジメント・サイクル  ミッション、ビジョン、ゴール  多職種協働 (interprofessional collaboration)  健康の社会的決定要因 (social determinants of health)</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  日本はいまや高齢人口割合が世界一多い国である。医療・福祉サービスのいずれかを必要とする高齢者は、同時に他のサービスも必要とする。いずれかの分野で働く者は、医療・福祉サービスの全体を学ばねばならない。質の高いサービスを提供するには、ミクロ（臨床）レベルの技術だけでなく、それを支えるチーム・組織、システム、政策に至るすべてのレベルにおけるマネジメントが影響する。  本講義では、医療・福祉職に必要なミクロ（臨床）レベルの QOL（quality of life）やケア・マネジメントから、メゾ（チーム・事業所）レベルのマネジメント、マクロ（政策）レベルの医療・介護・社会政策的マネジメントまで取り上げて論じる。  医療福祉サービスの特性・固有性と、レベルや領域を超える「マネジメント」の普遍性の両面から、その基礎的な概念を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  医療・福祉の各場面におけるマネジメントの必要性を理解する。  現場の課題をミクロ、メゾ、マクロの各視点から説明できる。  現場の課題に種々のマネジメント手法を応用することができる。  現場の課題の社会的・制度的背景を理解し、現場のマネジメントに役立てられる。  多職種協働の必要性、困難性を説明できる。</p>	
授業の進め方	第 1回 オリエンテーションとポートフォリオ・医療・福祉マネジメント総論（渡邊） 第 2回 QOL を捉える枠組み（渡邊） 第 3回 ケア・マネジメント（渡邊） 第 4回 ケア・マネジメントと多職種連携（渡邊） 第 5回 健康行動を促す戦略（渡邊） 第 6回 チーム・組織のマネジメント：職業性ストレス（渡邊） 第 7回 チーム・組織のマネジメント：ファシリテーション（渡邊） 第 8回 ケアの質のマネジメント研究（渡邊） 第 9回 保健医療福祉の半世紀とNPM（近藤） 第10回 医療政策（近藤） 第11回 超高齢社会と福祉産業のmission・chance・risk（近藤） 第12回 高齢者医療介護の課題（近藤） 第13回 保健・介護予防政策のマネジメント（1）（近藤） 第14回 保健・介護予防政策のマネジメント（2）（近藤） 第15回 研究と教育のマネジメント（近藤） ・臨床→チーム・組織→政策の順に進める予定だが、講師の都合で順番が変更になる場合がある。 ・グループワークを取り入れる場合がある。	
事前学習の内容 学習上の注意	・テキストの該当部分を予習すること。 ・講義内で受講生のポートフォリオの発表を実施する。	
本科目の 関連科目	ケースメソッド演習	
テキスト	近藤克則著：「医療・福祉マネジメントー福祉社会開発に向けて 第 3 版」改訂版、ミネルヴァ書房，2017	
参考文献	近藤克則：「医療クライシス」を超えて-イギリスと日本の医療・介護のゆくえ。医学書院，2012 近藤克則：健康格差社会への処方箋。医学書院，2017 近藤克則：長生きできる町。角川新書，2018 近藤克則：研究の育て方-ゴールとプロセスの「見える化」。医学書院，2018 近藤克則：健康格差社会-何が心と社会を蝕むのか。医学書院，2022 藤井博之：ラーニングシリーズⅠ P 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践第 1 巻Ⅰ P の基本と原則。協同医書。2018 奥原剛：実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーションー人を動かす 10 原則Ⅰ。大修館書店，2021	
成績評価方法 と 基準	毎回、ミニ・レポート、感想、質問を提出してもらいます。この提出を基に出席確認を行います。本レポートは 2000 文字から 3000 文字程度（A4 版で 2 枚以内）。テーマは講義中に示します。 〆切りは 1 月 19 日、nfu.jp に提出してください。 毎回の提出物・ポートフォリオ発表(30 点)とレポート(70 点)の割合で評価します。	

□大学院共通科目

科目名	先端老年社会科学講座 ( 国立長寿医療研究センター連携科目)	1 単位
担当者	島田裕之( 客員教員)、片山 脩( 非常勤教員)、宇田和晃( 非常勤教員) 下田隆大( 非常勤教員)、川上歩花( 非常勤教員)、張姝( 非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド 形式	
テーマ	高齢者や老化の問題を学際的な視点から 学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 健康増進、疾病・障害予防、コホート研究、認知症</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 老年社会科学は、高齢者や慢性疾患患者の保健・医療・福祉に関する諸問題に対し、医学、心理学、社会学、福祉学、栄養学など様々な学問における理論や方法論を用いて学際的な視点から研究を行う学問である。本講義では、6 名の担当者から基礎知識だけでなく、老年社会科学に関する最新の知見を紹介する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 老年社会科学の基礎的な知識と最新の知見を理解し、個々に問題意識や関心を持ち、現在の立場でできる行動計画を立案する。</p>	
授業の進め方	第 01 回 高齢化の疾病・障害予防についての動向 (島田) 第 02 回 高齢者の認知症予防 (片山) 第 03 回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (1) (宇田) 第 04 回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (2) (宇田) 第 05 回 高齢者の身体活動 (下田) 第 06 回 高齢期の栄養・口腔機能 (川上) 第 07 回 高齢期の公衆栄養：認知症予防食生活 (張) 第 08 回 高齢者の内在的能力 (張)	
事前学習の内容・学習上の注意	各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。	
本科目の関連科目	福祉と疾病、リハビリテーション特論Ⅰ、医療・福祉マネジメント (以上、医療・福祉マネジメント研究科開講科目) 高齢者福祉論特講 (社会福祉学専攻 (通信) 開講科目)	
テキスト	指定なし	
参考文献	指定なし	
成績評価方法と基準	各講義日 (2 限分) の小レポート 40 点、最終レポート 60 点で 100 点満点。総合評価により 60 点以上を合格とする。	

□医療・福祉実践科目

科目名	ケアマネジメント 論	2 単位
担当者	上原 久( 非常勤教員)	
開講形態	対面形式	
テーマ	ケアマネジメント の理論と 実際	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. 多職種連携 2ケアマネジメント 3チームワーク</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ケアマネジメントは、クライアントの複合的なニーズに対応する専門職を組織し、連携して課題解決に向かう営みです。連携する専門職がクライアントのニーズを正しく把握し、クライアントの理解を深め、QOL 向上に向けた課題解決を丁寧に行っていく。その際、チームメンバーが「顔の見える関係・価値観を共有できる関係」を構築できると、ケアマネジメントの効果はより一層大きなものになります。しかしこれは、簡単なようで難しい。この講義では、ワークを中心に置きながら連携の生成プロセス、連携の阻害要因や促進要因、効果的なディスカッションの方法等について、ケアマネジメントに必要な中核知識・周辺知識を実践的・体験的に学びます。ワークは、私たちの日常生活に関するものを取り上げながら、「チームが連携して課題解決に向かう営み」について理解を深めていきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>①実践技術としてのケアマネジメントについて理解できる。</p> <p>②連携の概念について理解できる。</p> <p>③多職種連携に不可欠な事例理解の深め方を理解できる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 導入講義・ケアマネジメントの概要と意義、歴史と類型</p> <p>第 2 回 インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、インターベンション</p> <p>第 3 回 エバリュエーション、ターミネーション</p> <p>第 4 回 連携、チームビルディング、チームワーク</p> <p>第 5 回 連携の関連技術、連携の阻害要因・促進要因</p> <p>第 6 回 スーパービジョン、対象者理解</p> <p>第 7 回 ケア会議の必要性、ケア会議を構成する要素</p> <p>第 8 回 ケーススタディー①</p> <p>第 9 回 ケーススタディー②</p> <p>第 10 回 ケアマネジメントの実際①</p> <p>第 11 回 高齢者領域における課題</p> <p>第 12 回 ケアマネジメントの実際②</p> <p>第 13 回 障害者領域における課題</p> <p>第 14 回 その他の領域(就労・生活困窮)における課題</p> <p>第 15 回 振り返りと総括</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>○指定したテキストを事前に読んでおくことが望ましい。</p> <p>○ソーシャルワーク論や保健・医療・福祉サービス論等の基礎的な科目に関する基本的な知識を前提として講義を進める。</p> <p>○ディスカッションには積極的に参加すること。</p>	
本科目の関連科目	<p>ソーシャルワーク論、医療・福祉マネジメント保健・医療・福祉サービス論)、スーパービジョン論、地域福祉論</p>	
テキスト	<p>①上原久：『ケア会議の技術 2』(中央法規出版)</p> <p>②上原久：『見立てを深めるための事例検討会』</p>	
参考文献	<p>①野中猛、上原久：『ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質』(中央法規出版)</p> <p>②野中猛ほか：『多職種連携の技術』中央法規出版</p>	
成績評価方法と基準	<p>1回ごとのコメントカードの提示 (20%)、ディスカッションへの参加度 (20%)、提出レポート (60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。</p>	

□医療・福祉実践科目

科目名	人材マネジメント 論	2 単位
担当者	裴 英洙( 非常勤教員) 栗田かほる( 非常勤教員)	
開講形態	対面形式	
テーマ	医療・介護組織における人や組織のマネジメント を学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; マネジメント コミュニケーション、リーダーシップ、モチベーション、組織行動、ロジカルシンキング</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 人材マネジメントは、組織の目的達成に向け「人と組織」を最大限効果的に機能させるための中核的活動で、組織が継続的に発展するために欠かせない最も重要な領域です。経営資源である「人・モノ・カネ」のうち、「人」は意志と感情を持つ存在であり、マネジメント次第で組織の価値を大きく高める一方で、誤れば価値を損ないかねません。</p> <p>本講座では、「人と組織」をマネジメントしていく方法を、ケースディスカッションと講義を通じて学んでいきます。受講者自身が考え、互いの意見を発言しあうことで、受講者間で双方向に学びあうという特徴があります。現場で遭遇する複雑で多様な課題をテーマに、様々な視点から議論していきます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材マネジメントの基礎知識や考え方を学ぶことができる</li> <li>・物事の全体像ととらえ論理的に考え人にわかりやすく伝える力を鍛えることができる</li> <li>・討議を通じて他者・他職種の意見を受け止め多様な視点を得ることができる</li> </ul>	
授業の進め方	第 1 回 人材マネジメント概論 第 2 回 人材マネジメント基礎 (1) 第 3 回 人材マネジメント基礎 (2) 第 4 回 人材マネジメント基礎 (3) 第 5 回 人材マネジメント基礎 (4) 第 6 回 コミュニケーション 第 7 回 リーダーシップ (1) 第 8 回 リーダーシップ (2) 第 9 回 モチベーションマネジメント 第10回 医療現場における人材課題 (1) 第11回 医療現場における人材課題 (2) 第12回 人材マネジメントの複合的課題 (1) 第13回 人材マネジメントの複合的課題 (2) 第14回 人材マネジメントの複合的課題 (3) 第15回 総括	
事前学習の内容・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目に注意点を含む詳細なオリエンテーションを実施します</li> <li>・予習が必要な場合は、事前に教材(ケース)を配布いたしますので、ケースを読んで設問を考えてきてください</li> <li>・指定した参考文献を事前に読んでおくことがのぞまれます</li> </ul>	
本科目の関連科目	特になし	
テキスト	テーマと課題に応じて、担当者が作成した資料等をもとにクラスを運営します	
参考文献	裴英洙 新「医療職が部下を持ったら読む本」(白経 BP 社) 裴英洙「医療職が部下に悩んだら読む本」(白経 BP 社)	
成績評価方法と基準	授業での発言点(60点)、レポート(40点)により評価し、総合評価60点以上を合格とします。(試験の予定はなし)	

□講義科目( 大学院共通科目)

科目名	研究方法概論Ⅲ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド 形式 ※【 nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	応用的な多変量解析の手法、SPSS の使い方、量的論文の書き方について理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 量的方法、多変量解析、SPSS、量的論文の書き方</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>研究方法概論Ⅰでは量的研究法の基礎を取り上げたが、本科目では量的研究法の応用的な内容について学んでいく。具体的には、多変量解析の中でよく用いられる多様な回帰分析に加え、因子分析、パネルデータ分析、マルチレベル分析などを取り上げる。実験研究や臨床研究についても取り上げる。講義の後半では、統計解析ソフト SPSS の使い方、量的論文の書き方等についてふれていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>① 量的研究法における応用的な内容を理解できる。</p> <p>② 統計解析ソフト SPSS の使い方について理解できる。</p> <p>③ 量的論文のまとめ方と注意点について理解できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 多様な回帰分析ーロジスティック回帰分析・多項ロジスティック回帰分析・順序回帰分析</p> <p>第2回 因子分析</p> <p>第3回 共分散構造分析・パス解析</p> <p>第4回 実験研究・臨床研究</p> <p>第5回 パネルデータ分析</p> <p>第6回 マルチレベル分析</p> <p>第7回 統計解析ソフト SPSS の使い方</p> <p>第8回 量的論文の書き方ー結果の示し方と解釈の仕方ー</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<b>本科目はオンデマンド 授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</b>	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法(大学院共通科目)、統計解析講座(大学院共通科目)、研究方法概論Ⅰ(大学院共通科目)	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	<p>【統計学と多変量解析に関する基礎】</p> <p>栗原伸一・丸山敦史, 2017, 『統計学図鑑』オーム社</p> <p>【多変量解析・RやSPSSの使い方】</p> <p>畑農鋭矢・水落正明, 2022, 『データ分析をマスターする12のレッスン(新版)』有斐閣</p> <p>神田善伸, 2024, 『初心者でもすぐにできるフリー統計ソフト EZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析(改訂第2版)』南江堂</p> <p>川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之, 2018, 『Rによる多変量解析入門』オーム社</p> <p>米川和雄・山崎貞政, 2010, 『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル』北大路書房</p> <p>三輪 哲・林雄亮, 2014, 『SPSS による応用多変量解析』オーム社</p> <p>明石法子・岸田拓也・花塚優貴・天野成昭, 2025, 『多変量解析のための SPSS 操作マニュアル: 解析手順から結果・解釈の書き方まで』ナカニシヤ出版</p> <p>【パネルデータ分析・マルチレベル分析】</p> <p>筒井淳也・水落正明・保田時男, 2016, 『パネルデータの調査と分析・入門』ナカニシヤ出版</p> <p>沖本竜義, 2010, 『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店</p> <p>安藤 正人, 2011, 『マルチレベルモデル入門』ナカニシヤ出版</p> <p>清水裕士, 2014, 『個人と集団のマルチレベル分析』ナカニシヤ出版</p> <p>【量的論文の書き方ー結果の示し方や解釈の注意点】</p> <p>江崎貴裕, 2020, 『分析者のためのデータ解釈学入門: データの本質をとらえる技術』ソシム</p> <p>アメリカ心理学会(APA), 2023, 『APA 論文作成マニュアル(第3版)』医学書院</p> <p>牧本清子・山川みやえ, 2020, 『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版: 研究手法別のチェックシートで学ぶ』日本看護協会出版会</p> <p>浦上昌則・脇田貴文, 2020, 『心理学・社会科学の調査系論文の読み方(改訂版)』東京図書</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

□講義科目( 大学院共通科目)

科目名	研究方法概論Ⅳ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド 形式 ※【 nfu.jp 】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	質的研究における多様な手法と 質的論文の書き方について理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 質的研究、事例分析、アクションリサーチ、混合研究法、質的論文の書き方</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>研究方法概論Ⅱでは質的研究法の基礎を取り上げたが、本科目では質的研究における多様な手法について学んでいく。具体的には、事例研究、アクションリサーチ、混合研究法などを取り上げる。加えて多様な質的調査法および分析法についても説明する。最後に質的論文の書き方や注意点にふれる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>質的研究における多様な調査法を理解できる。</p> <p>質的研究における多様な分析法を理解できる。</p> <p>質的論文のまとめ方と注意点について理解できる。</p>	
授業の進め方	第1回 多様な質的調査法と分析法Ⅰ 第2回 多様な質的調査法と分析法Ⅱ 第3回 多様な質的調査法と分析法Ⅲ 第4回 事例研究 第5回 アクションリサーチ 第6回 混合研究法Ⅰ（基礎編） 第7回 混合研究法Ⅱ（応用編） 第8回 質的論文の書き方と注意点	
事前学習の内容 学習上の注意	<u>本科目はオンデマンド 授業のため、開講している 期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも 期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</u>	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、研究方法概論Ⅱ（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	<p>【質的研究の概説書】</p> <p>ジョン・クレスウェル, ジョアンナ・クレスウェル, 2022, 『質的研究をはじめのための30の基礎スキル』新曜社</p> <p>プランニー・リアンプトン, 2023, 『質的研究法』メディカルサイエンスインターナショナル</p> <p>【事例研究】</p> <p>ロバート K.イン, 2011, 『新装版 ケース・スタディの方法(第2版)』千倉書房</p> <p>アレキサンダー・ジョージ・アンドリュース・ベネット, 2013, 『社会科学のケース・スタディ』勁草書房</p> <p>【アクションリサーチ】</p> <p>グリーンウッド, DJ, レヴィン, M, 2023, 『アクションリサーチ入門』新曜社</p> <p>デイビッド・コフラン, テレサ・ブラニック, 2021, 『実践アクションリサーチ』碩学舎</p> <p>【混合研究法】</p> <p>クレスウェル・ジョン, 2017, 『早わかり混合研究法』ナカニシヤ出版</p> <p>チャールズ・テッドリー, アッバス・タシャコリ, 2017, 『混合研究法の基礎』西村書店</p> <p>【多様な質的データ分析法】</p> <p>戈木クレイグヒル滋子, 2016, 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ（改訂版）』新曜社</p> <p>佐藤郁哉, 2008, 『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社</p> <p>安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ, 2016, 『TEA 理論編』新曜社</p> <p>大谷尚, 2019, 『質的研究の考え方：研究方法論から SCAT による分析まで』名古屋大学出版会</p> <p>ブラウン・V, クラーク, V, 2025, 『テーマ分析：実践ガイド』新曜社</p> <p>ティム・ラプリー, 2018, 『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析』新曜社</p> <p>ブノワ・リウー, チャールズ C. レイガン, 2016, 『質的比較分析(QCA)と関連手法入門』晃洋書房</p> <p>【質的論文のまとめ方と注意点】</p> <p>ハイディ・レヴィット, 2023, 『心理学における質的研究の論文作法』新曜社</p> <p>太田 裕子, 2019, 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート（50 点）、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出（50 点）により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

※これは 2025 年度版（参考）です。2026 年度版作成次第、差し替えます。

科目名	心理統計法特論	2 単位
担当者		
テーマ	心理尺度の構成および相関研究の実践を通して、各種心理統計の技法を習得する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 記述統計、推測統計、心理尺度の構成、項目分析、相関研究</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本特論では心理学研究の基礎的な統計手法について、実践を通して習得する。そのため、心理尺度を自身で作成し、この尺度によって測定される特性とパーソナリティの主要 5 因子との関係を調べる相関研究を実践する。まず記述統計と心理尺度の構成、および相関研究に関する基礎的な学習を行ない、質問紙を完成させる。その後各自で収集したデータをもとに、心理尺度の構成において求められる項目分析や因子分析、さらにパーソナリティとの相関研究などにより、各種の心理統計技法を学ぶ。解析は統計パッケージ（SPSS）を使用する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ① 心理学研究に用いられる統計の基礎を理解することができる。 ② 各種統計手法を用いた心理データの分析を実施することができる。 ③ 心理尺度の構成を自身で行うことができる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 記述統計と尺度構成の基礎 第 3 回 尺度項目の作成 第 4 回 相関研究の基礎 第 5 回 質問紙の作成 第 6 回 基本統計量の算出 第 7 回 推測統計の基礎 第 8 回 項目分析（I-T 相関）、信頼性分析 第 9 回 因子分析 1 第 10 回 因子分析 2 第 11 回 $t$ 検定 第 12 回 分散分析 第 13 回 クロス集計とカイ二乗検定 第 14 回 その他の解析 第 15 回 まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	演習内容は知識やスキルを積み上げていく構成となっている。そこで各回各自で復習を行い、学習内容を習得していることを前提とする。また授業時間外にデータ収集など課題を課すことがある。なお、授業では統計解析パッケージ（SPSS）を使用する。受講生には PC 操作の基礎的技能が求められる。	
本科目の関連科目	心理学研究法特論	
テキスト	使用しない（レジュメを使用する）。	
参考文献	授業内で指示する。	
成績評価 方法と基準	課題レポート（30%）、演習への積極的参加度（30%）、最終レポート（40%）により評価を行い、全体で 60%以上を合格とする。	